

## はぐくみ歯科こどもおとなクリニック 院長 森岡 雅弥 氏



### ■PROFILE

大阪歯科大学歯学部卒業後、大阪歯科大学附属病院臨床研修を修了。関西を中心に複数の医院の勤務を経て、小児矯正や予防歯科の領域において多くの臨床経験と研鑽を積む。2025年4月、「はぐくみ歯科こどもおとなクリニック」を開院。

patona グローバルビレッジ津雲台（以下、阪大側施設含め「グローバルビレッジ」）の「つくもゲート」2階にて、2025年4月に「はぐくみ歯科こどもおとなクリニック」を開院した森岡雅弥院長にお話を伺いました。



『当院は、ただ虫歯を治療するだけの場所ではなく、“痛くなる前に予防し、健康と一緒に育む場所”でありたいと考えています。大切にしているのは、患者さま一人ひとりのライフスタイルに寄り添うこと。大人の方には、長期にわたって安定したお口の健康を、小さなお子さまには、「歯医者さんは怖くない、楽しい場所だ」という心の貯金をしてもらえようという関係性を築いていきたいと願っています。丁寧なカウンセリングと痛みを配慮した治療を通じ、ご家族皆さまがリラックスして通える、そんな温かい歯科医院を目指しています。』と熱心に語る森岡院長。

森岡院長がイメージした医院の開業場所としてグローバルビレッジを選んだ決め手は何だったのでしょうか？また、開業準備で注力した点についてもお聞かせください。

『一番の理由は、このエリアの人口動態と、私がこれまで学んできた“小児矯正”という診療内容が深く合致したからです。小さなお子さまが多く、地域全体で子どもたちの健やかな成長を見守るこの環境こそ、自分の知識と経験を最大限に活かせる場所だと考えました。また、駅近という好立地に加え、40台以上の駐車場を完備という抜群の利便性は、患者さまに無理なく通い続けていただくための重要な差別化ポイントになると考えました。開業準備においては、医療モールという特性を活かし、地域の皆さまにいち早く当院を知っていただくことに注力し、特に内覧会ではスタッフ一丸となって医院の想いや診療のこだわりを直接お伝えできる場づくりに重点を置きました。』

開業されて間もなく1年半となりますが、どのような患者さんが来院されていますか？

『グローバルビレッジ内にお住まいの学生さんや大

学病院の寮にお住まいの方をはじめ、津雲台エリアを中心にファミリー層やシニアの方まで、幅広い世代の方々に来院いただいています。電車やお車をはじめ、それぞれのライフスタイルに合わせて便利に来院いただけるのが大きな特徴です。』

グローバルビレッジでは、大阪大学学生・教職員寮、賃貸マンション、自立型サ高住、シェアハウスといった様々な「居住施設」と、住民や地域の生活利便に応えるクリニックモールをはじめとする「テナント施設」から構成されていますが、グローバルビレッジ内の事業者と連携していることがあれば教えてください。

『他の診療科の先生方と迅速に連携できる環境が整っています。例えば、骨粗しょう症や糖尿病など、歯科治療において全身疾患への配慮が不可欠な患者さまでも、クリニックモールならではの密な連携により、安心して治療を受けていただける体制を構築しています。また、サービス付き高齢者向け住宅にて口腔健康機能の向上を目指した勉強会を行うなど、健康啓発活動にも注力してきました。』

本日は、クリニックの特徴と開業にかかる想いや開業準備のポイント、そして現状の取り組みについてお話しいただきありがとうございました。最後に、グローバルビレッジでの今後の診療やクリニック運営について一言いただけますでしょうか。

『グローバルビレッジが掲げる“多世代・多様性のコミュニティづくり”というコンセプトに深く共感しています。お口の健康は、食べる楽しさや会話を通じた豊かなコミュニケーション、そして全身の健康の基盤です。数多くの地域の方々に当院を知っていただく機会となる、年に一度開催の施設イベントにも積極的に参加し、世代を問わず、誰もが気軽に健康の相談ができる“地域のハブ”のような存在になることで、この街の温かいコミュニティづくりに貢献したいと考えています。』

